

3 泉新執行部の船出 政権交代から10年、世代交代の時

3年3ヶ月の民主党政権が幕を閉じ、自民党に政権交代した2012年の選挙から、今年の11月で丸10年を迎えます。

あれからもう10年が経つのに、一国の宰相が予算委員会で「悪夢の民主党政権」という言葉を使うのもいい加減にしてはどうかと思います。

一方で、立憲民主党でも、民主党政権で閣僚として中枢を占めていたような人が相変わらず党の顔として表に立つ体制が続いてきました。

枝野代表の辞任を受けて行われた代表選挙には、当選した泉健太さん以外に、35歳でニセコ町長となり3期務めた逢坂誠二さん、49歳で出産し5歳の息子の子育てに奮闘中の西村智奈美さん、映画「なぜ君は総理大臣になれないのか」でブレイクした小川淳也さんの多様な顔ぶれの3人が立候補し、活発な論戦が行われました。一騎打ちではなく、女性の候補が出たこと、また、小川さんが有楽町駅頭で青空対話集会を連日行ったことは、注目を集めました。

泉新代表は、代表選挙を戦った3人全員を執行部に登用し、逢坂代表代行、



西村幹事長、小川政調会長という挙党体制を築き上げました。

泉新代表は47歳、政調会長の小川淳也さんは私と同じ50歳、野党第一党初の女性幹事長となった西村智奈美さんも50代、そして逢坂代表代行と私はともに当選5回です。そういう意味では、泉新執行部は、これまでとはかなり違う新しい顔ぶれとなっていると思います。

また、泉さんは、野党第一党としては初となる女性幹事長に西村さんを抜擢したことに加えて、代表選挙で「執行役員会の半数を女性にする」と公約し、それを実行しました。裏話をすれば、私は代表選挙で泉選対事務総長をしていましたが、我々選対幹部は、泉さんの気持ちは理解できるけど、「女性役員を大幅に増やす」とか、せめて「半数を目指す」にしてはどうかと言いましたが、「やろうと思えばできるし、それくらいしないと変わらないんだ」と言って泉さんは頑として譲りませんでした。

先の総選挙では、与野党関係なく、「政権交代より世代交代」が一つのキーワードになり、ベテラン候補が苦戦しました。

党運営においても世代交代のタイミングだと思います。ただし、老壮青が力を



を合わせる事が重要なのは言うまでもありませんし、また、先輩世代からすれば、「お手並み拝見」という面もないとは言えません。これからが真価を問われる正念場です。

新型コロナウイルスの流行により、2年以上、海外との往来が制限されています。私は、仕事やプライベートでこれまで約30ヶ国を訪問したことがあります。そこで、今回は印象深かった国、ベスト5をご紹介します。

3 トルコ
アジアとヨーロッパの文化の交差点。飛んでイスタンブールのとおり、エキゾチック。トルコ料理は世界三大料理に数えられる。

4 オーストリア
学生時代に初めての海外旅行で、バックパッカーとして、モーツァルトゆかりのウィーンやザルツブルクを訪れた思い出は今も忘れません。

5 アラブ首長国連邦
人工都市、ドバイは圧巻。ラクダや四駆で砂漠を楽しむのも最高。長男はもう一度行ってみたいと今でも言います。

ONIKEN'S WORLD JOURNEY

オニケン世界の旅

ウガンダ

オーストリア

トルコ

ミャンマー

1

ウガンダ

国際会議で訪問しました。首都のカンパラはかなり都会ですが、路上に普通にハシビロコウがいるのがアフリカならではの。

2

ミャンマー

再び軍事クーデターが起きてしまいましたが、民主化後に訪問し、政府関係者と会談しました。政治的にも注目の国ですが、仏教遺跡など観光地としても魅力がいっぱい。

「おおにし健介」

Official website

オニケン Webサイト

リニューアルしました！

けんすけタイムズ & おにけん応援団

おにけん応援団 入会ください！

Find us on facebook

フォロー おねがいします

公式YouTubeチャンネル

チャンネル登録 お願いします！

オニケンTV

YouTubeチャンネル「オニケンTV」を始めました。興味を持って観てもらえる動画の作成・発信に努めています！

大西 健介（おおにし けんすけ） | Profile |

- 昭和46年4月13日生まれ
- 京都大学法学部卒。参議院事務局職員、在米大使館2等書記官、馬淵澄夫衆議院議員政策秘書を経て、平成21年第45回衆議院議員総選挙で初当選。以来、連続5期当選。
- 党務では、青年局長などを経て、現在は選挙対策委員長に就任。
- 国会では、消費者特別委員会、懲罰委員会に所属。
- 小学生2人の男の子のパパ。ニックネームは「オニケン」。

ONIKEN PRESS

立憲民主党後退の中、小選挙区で5度目の当選



10月31日に投開票が行われた総選挙では、立憲民主党は、改選前110議席を96議席に減らすという敗北を喫しました。かつて「民主王国」と呼ばれた愛知県でも15小選挙区のうち、立憲が小選挙区で勝てたのは3つだけという厳しい結果となりました。

そうした中、何とか小選挙区で勝利することができたのは、初当選前から数えると14年間、私を育ててきていただいた愛知13区の皆さまのおかげであり、有権者の皆さまが「これから勉強します」という新人ではなく、4期12年間の実績と、どちらの候補が愛知13区を代表して国会で仕事ができるのかを冷静にご判断いただいた結果だと思っています。心より感謝申し上げます。

選挙期間の12日間ですることは限られています。私はこれまでの選挙を通して「選挙は日常活動こそがすべて」だと思っています。ですから、今回の選挙は、応援弁士の要請等特別なことはほとんど行わず、日頃の活動の延長線上で、選挙はその集大成という考えで取り組みました。

新人相手であることを考えると、もう少し差をつけて勝ちたかったのが本音で、相手候補の地元である碧南で約6千票負けたことには大きな反省点です。相手候補の選挙区での得票数は、比例の自民と公明の票を足した数とほぼ一致しており、自公の厚い支持基盤に対抗して小選挙区

で勝ち続けるために、党と自身の自力と地力を強くできるように、さらに努力を重ねていく決意です。

また、解散当日に、お隣の愛知11区の現職だった全トヨタ労連組織内議員の古本代議士が突然、不出馬を表明したことは、やはり13区には大きな影響がありました。

そして、愛知県、特に西三河では、共産党を含む野党連携は、有権者には、理解されなかったと言わざるを得ません。

愛知13区の比例代表の得票数を見ると、前回の選挙での立憲民主党と希望の党の得票数の合計は約11万票でしたが、今回は立憲民主党と国民民主党の比例得票数の合計は7万票にとどまっています。失われた約4万票の多くは、自民や第三極の維新、れいわに流れたと考えられ、政権には不満を持つ非共産・無党派の受け皿に立憲民主党がなれなかったことを真摯に受けとめ、戦略の見直しを図る必要があります。

立憲民主党が何を目指し、どんな政策を掲げているのかを有権者に十分に伝えきれないままに、他の政党と組むとか組まないとかという議論が先行したことで、有権者の目には選挙目当ての野合と映ったことを猛省すべきです。



第49回 衆議院議員総選挙結果

	おおにし 健介	石井 拓	票差	投票率(%)
安城	50,460	42,478	7,982	63.28
刈谷	40,974	34,251	6,723	62.59
碧南	12,580	18,499	-5,919	56.40
知立	18,784	14,769	4,015	61.39
高浜	11,235	10,206	1,029	59.26
合計	134,033	120,203	13,830	61.56
前回	116,471	(大改正)109,581	6,890	60.51

比例 得票数

旧野党系	今回	前回	その他野党系	今回	前回
立憲民主党	56,395	47,928	共産党	12,437	12,169
国民民主党	14,236		維新の会	25,321	10,840
(希望の党)		62,437	社民党	3,282	2,160
【旧民主合計】	70,631	110,365	れいわ新選組	10,802	
与党系	今回	前回	N党	4,532	
自民党	102,799	86,080	幸福実現党		1,656
公明党	24,479	23,046			
【与党合計】	127,278	109,126			

前回の選挙得票数と比べて
 ……増加 ……減少
 ……前回とほぼ同じ

令和4年・寅



今年は、十干十二支では、壬寅（みずのえ・とら）という年になります。「壬」は陽気を下に宿するという意味を持っており、「寅」は春が来て草木が生じることを表しています。令和4年、2022年は、これから成長する物事の始まる年と言えます。新型コロナウイルス感染症が終息し、新しい社会や経済が動き出す年になることを期待したいと思います。

虎に関する言葉として、私が選んだのは、「虎嘯（こしょう）。意味は、虎がほえることから「英雄が志を得て活躍するたとえ」。「虎嘯」の心意気をもって新たな年に臨みたいと思います。



「虎だ！ 虎だ！ お前は虎になるのだ！」
初代タイガーマスク 佐山 聡さんと。

1 選対委員長の仕事

【選挙対策委員長】

選挙に関する党の実務を担当する党役員。自民党では、幹事長、総務会長、政策調査会長と並んで党四役に数えられる。

What's
選対
委員長?

選挙対策委員長の仕事は、その名の通り「選挙」です。もう少し具体的に言うと、国政選挙をはじめ各級選挙の公認や推薦の決定、公認・推薦料等の選挙資金の交付等の権限を持つのが選対委員長です。

政党がどんなに素晴らしい政策を掲げていても、それを実現するには、党勢を拡大することで、議会の中で自分たちの意見が通るようにし、究極的には政権を目指す必要があります。

また、どんなに素晴らしい人材であっても、議員として活動するためには選挙に当選する必要があります。

有為の人材を発掘・擁立し、物心両面で支援することで当選に近づけ、仲間を増やしていくことは政党にとって最も重要な仕事です。

また、議員の立場で言えば、選挙は政治家としての「生死」に関わることであり、公認権等を握る選対委員長の権限は大きく、反面、責任も重大です。

選対委員長としての当面の最重要課題は、次の2つです。

第一は、本年7月に予定されている参議院選挙です。昨年の総選挙は、改選前110議席を96議席に減らす結果となりましたが、与野党が伯仲する緊張感のある政治の実現のためには、この夏の参議院選挙はたいへん重要な政治決戦となります。

まず、現職の再選が至上命題です。一方で、現職が引退する選挙区や未だ候補者が決まっていない選挙区も多くあります。10月末までは、どの県選も目前の衆議院選挙に全力を集中していたために、従来と比べても候補者擁立作業は遅れており急がなければなりません。が、党勢減退中の候補者擁立は困難な作業です。

そうした中でも、泉代表や西村幹事長からは、女性や若い人を積極的に擁立して欲しいという要請を受けています。

特に、新人の擁立は、決定までは、水面下での調整が必要で、たいへんきをつかう必要があります。本人との面談により意思や資質を確認し、身辺や過去の言動等に問題がないか、いわゆる「身体検査」を行い、地元の県連や連合の地方組織との調整などそのほとんどは隠密裏に行うことになります。

例えば、昨年来に、かつて歌手や女優として活躍した新人候補との面談のために地方に出張した際には、ホテルの前に張っていたマスコミをまくために裏口から出て、場所を変更して密会するということがありました。

参院選では、改選定数1の「1人区」が32あり、多くは人口が少ない地方のため、保守地盤が強く、物量に勝る自民党が優位と言われていますが、与野党どちらかの候補が落選するため、選挙全体を左右すると言われてきました。候補者の一本化により2016年は11勝、19年は10勝と一定の成果を挙げてきました。総選挙では、野党連携、特に共産党との「限定的な閣外からの協力」と



いう合意が問題となりましたが、泉代表は「衆院選に向けて交わしたもので現時点で何か存在しているということでない」と述べています。また、政権選択選挙ではない参議院選挙では、これまで1人区での候補者の一本化を進めてきました。

泉代表は「野党として改選議席数の過半数獲得を目指す」としています。そのためには、泉代表が「兄弟政党」と呼ぶ国民民主党との選挙協力をはじめ他の野党との調整が不可欠となります。ただし、総選挙で政府批判票の受け皿となった日本維新の会やれいわ新選組といった「第三極」の台頭により、野党間の調整はますます複雑となっており、一筋縄でいかない困難な作業となることが予想されます。

直面するもう一つの課題は、衆議院情敗者への対応です。参議院選挙を戦うためにも、それぞれの地域で実際の選挙活動を支える衆議院総支部長の存在は不可欠です。また、衆議院は「常在戦場」と言われるように、いつ解散があるか分からないため、続けて活動することで当選可能性の高い方には、引き続き総支部長として次の選挙に向けて活動を続けられるような支援を行う必要があります。

昨年の総選挙では、政権交代可能な過半数を超える候補者擁立を行いました。が、当選者は96名にとどまったため、118名の情敗者がいます。選対委員長は、そのひとり一人と面談して、選挙結果の総括や活動継続の意思を確認した上で、総支部長への再任などの対応を決定していかなければなりません。

総支部長に再任されれば、党本部から一定の財政的支援が行われますが、現状の党の財政状況では100人を超える方々をすべて支援することは残念ながら不可能です。また、厳しい言い方になりますが、同じ相手と何度も戦っていて、これ以上続けても勝算が見込めないような場合には候補者を差し替えた方がよいと考えられるケースもあります。そうした厳しく辛い決断も選対委員長の仕事となります。

ちなみに、本年は、知事選挙等の地方選挙も多く予定されています。特に、沖縄では、名護市長選挙を皮切りに、知事選挙をはじめ多くの地方自治体で選挙が予定されています。奇しくも沖縄は今年、復帰50周年を迎えますが、在日米軍基地からオミクロン株が急激に拡がったこともあり、地位協定改定や基地問題が大きな争点になる可能性があります。

地方選挙は、必ずしも与野党対立の構図になるとは限りませんが、選挙ごとに党としての対応を求められることとなります。さらに、来年は統一地方選挙の年であり、総選挙で多くの接戦区で勝利したことからも明らかのように、地方における党の足腰の弱さを克服するために候補者公募など既に準備を始める必要があります。

このように、選対委員長の責任は重大ですが、裏方であり表からはあまりよく見えません。党務に専念するために、これまでのように国会中継の行われる予算委員会で質問するような機会もなくなってしまう。

見方によっては、貧乏くじに見えなくもありませんが、党内外の調整を通して政治家として自分を成長させる機会ととらえて与えられた職責を全うする覚悟です。

2 「批判ばかり」とは言わせません、政策立案型に転換

皆さんは、総選挙のマニフェストの最後に見開きで2頁を割いて、「[批判ばかり]とは言わせません」として、提出した議員立法の本数や政府提出法案の7割以上に賛成していること、新型コロナウイルス対策で立憲民主党の政策提言が実現した事例などが載せられていたのを覚えてでしょうか。おそらく、ほとんど知られていないと思います。

事実はこのとおりですが、これをわざわざマニフェストに書かなければならないということ自体が問題であり、国民にそうは受け止められていないことを我々は真摯に受け止めるべきではないと思います。

行政監視は立法府の重要な役割であり、おかしなことがあれば国会の場で徹底して追及していくことは当然です。この点、泉代表も「批判すべきは批判し、その上で我々の考え方を述べていく」と言っています。

一方で、泉代表は、各省庁の担当者をつとめるスタイルの野党合同ヒアリングは一旦取りやめるとしました。

安倍内閣委員長に代わり就任した馬淵国対委員長は「徹底審議、議論の充実、ファクト重視の3点で、国民の生活に寄り添った姿勢」で国会論戦に臨むとしています。

批判により政権に打撃を与え、政権の支持率を下げることもできても、立憲民主党の支持率を上げることができなければ意味がありません。

一方で、提案を時々、与党に採り入れてもらい満足しているだけでは政権を目指す必要はなくなってしまう。その点では、自民党には絶対実現できない立憲民主党の政策というのを国民に分かりやすく伝えていく努力が必要だ。

昨年の臨時国会では、一つ方向性が見えたと思います。18歳以下の子どものいる家庭に対する10万円の特別給付について、政府は、当初、5万円を年内に現金で、残り5万円分については新学期にあわせてクーポンで支給するとしていましたが、自治体の判断で年内に10万円を現金で一括支給することを認める方針転換を行いました。

これは、最初の5万円を予備費から支出するにあたり、予算委員会の理事懇談



会で、わが党の後藤祐一議員と私が出席し、後藤理事がクーポンにすることでかかる費用が約900億円という政府の答弁を引き出し、私が自治体の判断でクーポン

ではなく現金での給付も認められることを確認し、我々が現金での10万円一括給付を提案したことがきっかけとなっています。

また、立憲民主党は、シングルマザー支援団体等の声を受けて、9月以降に離婚し子どもを養育するひとり親が給付金を受給できないようなケースにつ

いて改善を求めましたが、松野官房長官は「制度上の対応は難しい」としました。

一方で、明石市では、実態に合わせて養育者に支給する対応を行っており、我々は、「離婚世帯子どもも給付金支給法案」を提出しました。

このように、これからも私たちは、おかしなことはおかしと批判した上で、ではどうするのか、具体的な提案を行い、政策変更を政府に迫っていくべきだと思います。

私は、前体制で、党の子ども子育てプロジェクトチームの座長を務め、子ども子育て予算の増や子ども省設置を内容とする「子ども総合基本法」を昨年の通常国会に提出しました。子ども子育て政策は、チルドレン・ファーストを

掲げてきた立憲民主党の一丁目一番地です。今年の通常国会には、政府与党からも法案が提出される見込みですが、与党審査の過程で「こども庁」が「こども家庭庁」に変わったことや幼稚園の幼児教育が文科省に残ることをとつても中身は骨抜きになっています。私たちの案を示した上で、自民党に任せていたのでは、子ども子育て政策はよくならないことを示す論戦ができるのではないかと期待しています。

